

# 本日醫事新報

定 價  
 一月分前金(郵税共) 二十八圓  
 半年分前金(郵税共) 二二圓七角  
 一年分前金(郵税共) 五十二圓  
 發行所 日本醫事新報社  
 牛込區赤坂下町八十一番地  
 電話牛込二八三六番  
 振替東京二五二七二番  
 執務時間は公休日の外  
 自午前八時至午後五時

注 意  
 ◎本社改善に就き御氣付の點あらば何卒社長宛て御申越し下さい。  
 ◎何事にも御地の出来事及び興味ある事項の通信投書をお歓迎します。  
 ◎購読料、廣告料、廣告料、人事紹介料、調査手数料等凡て金銭の御送附は成るべく無料送金通信法たる振替貯金(口座番號は上記の通り)を御利用下さい。但し御希望に依り集金郵便を差上げます。

## 地震談

安政大地震の實驗者

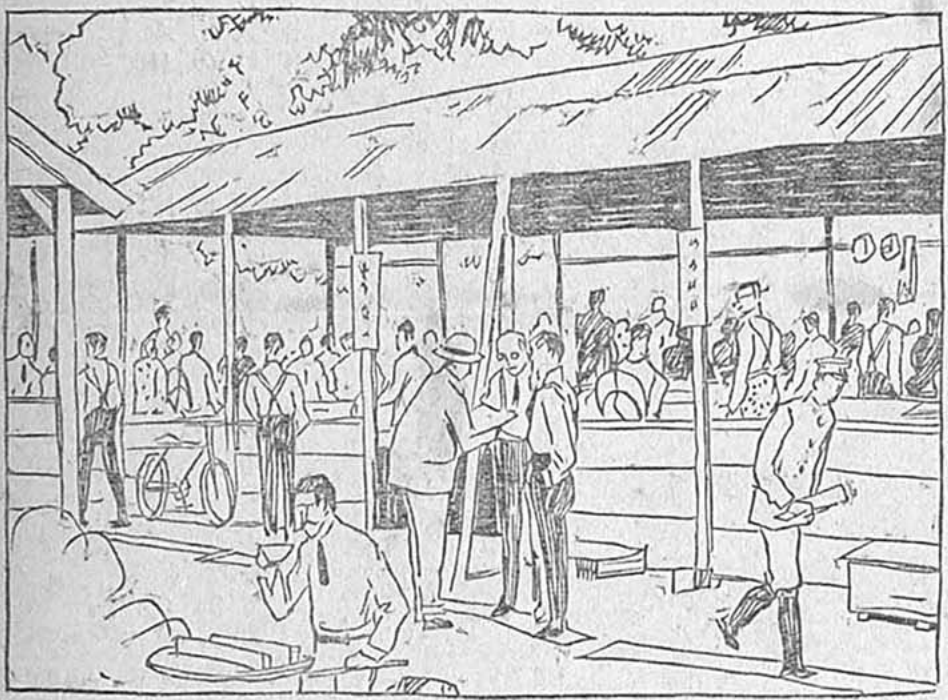
子爵 石黒忠恵

余は、六十九年前、安政二年卯の十月三日の江戸大地震には、淺草三筋町で逢ふた。其時、余は、十一歳で、家族は両親と、余と、下女一人、都合四人で、十月三日の夜、今の十時頃、俄然大地震で、其時余の父は大病で臥床せられて居たのを、母と共に助けて、戸外に出るに、

幸ひ雨戸が、自ら外れて居たので、直に庭に出て、松の木の根に、母は父を抱き、余は直に、戸内に入り、父のかいまきを引ずり出して、父に懸けた。夫れまでは暗黒であつたが、父にかいまきを懸けると同時に何となくあかるくなつて、ぼんやりと父母の顔が見えた。そこで、大に驚いて、首を回すと、既に四方に火災が起つて、此のあかるくなつたのは、其爲であつた。幸に、火災にはかゝらなかつたが、其夜も、翌日も、翌夜も、庭上に居た。すると、ゆり返して、尙大なる地震があると傳へて皆戸外に居たが、

後、後に聞くと、それは流言で、多く戸外に居らしめ、密かに人の居らぬ戸内に入つて、盗を働く爲

の宣傳であつたといふ事である。今回の地震に比し



景光の局務事護救災震時臨

の方が慘害大なりと思ふ。先づ、第一に、其頃は、

多くは堀井で、水道水、玉川井の頭の雨上水があつたから、水に乏しきを告るといふ聲は耳にせなかつた。火災は迅速に起り、又多かつたが、江戸三分の一に過ぎなかつた。震災の翌日、十月四日の午前頃には、火災は全く鎮静した。屍も、車で運ぶやら、長持で運ぶやらで、一番新吉原が多いとの事であつたが、一ヶ所千餘に過ぎぬ。今回のやうに到る處に焦屍を見るとか、

◆萬餘の屍が 累々たりとか、水に屍が浮游するとかいふ事は、聞かなかつた。さて、余は云爲く、此の悲惨極まる大災害は、いかに歎息悲傷するも、取返すことは出来ぬ。此時に當りては、唯、此災害を機會として、此災害を利用し、禍を轉じて福の元とする工夫が第一である。此の禍を轉じて福とするには、先づ専ら爲政者に待たねばならず、恰も此際偶然にも内閣交迭あつて、山本権兵衛伯が首相となられたのは、天が伯に大に期托する所があつたので、畏くも在天の

◆明治天皇が 此大業を山本伯や閣僚各位に負はしめ給ふたのだと思はれる。伯

# 卒中の豫後に就て

東京帝國大學醫學部教授

醫學博士 稻田龍吉

本日は二十分ばかり時間の餘裕がありますから、卒中の豫後に就いてお話し致します。卒中患者を御覽に入れるといふ事も出来ず、只お話し申上る丈けであります。

卒中の豫後を定めるには、先づ卒中の原因が何であるかと定める事が必要であります。即ち脳出血であるか「エンボリー」であるかといふ事を知るのには治療上に必要であるのみならず、豫後を定めるにも必要でありますから、出来るだけ兩者の鑑別を付けなければなりません。

例へば、卒中の発作が起つた時に、其のインスルトはエンボリーの方であると軽くつて短いのであります。若し又長く續くことがあつても脳出血豫後が悪くは無いのであります。それで豫後を知るに其の原因を知らねばならぬといふ事になります。

卒中の豫後は発作自己の豫後、半身不隨の豫後、再び発作が起るか、起らぬかといふ事の豫後の三種に別れます。其中で最も必要なのは発作自己の豫後であつて、生命の危険があるか、如何かといふ問題であります。脳出血の豫後は出血竈の大きさと、場所によつて定まつて來るのであります。

然し出血竈の大きさが何の位か数字的に示す事は困難であるが、大體に於て出血竈の大きい小さいかと云ふ事は臨床上の所見から定めて行く事が出来

ます。出血竈の大きさを定めるに臨床上参考となる症状は、第一、昏睡の深さと持續時間、第二、體温の關係、第三、呼吸の状態、第四、脈搏の關係、第五、コンユールテ、デヅイアチオン即ち眼及頭が横を向いて居る状態、之は眼球が出血竈に向つて居るか或は麻痺の部分の方を向いて居ることもある。それがあるかないか。次に眼底に鬱血乳頭があるかどうかといふ事を見て定めるのであります。

第一、昏睡の度合は軽い場合は一時間半か三時間位であるが、若しも深い昏睡が二十四時間以上も續きました場合は、大きな出血である事が解るのであります。極めて深い昏睡が二日以上も續いて後に醒覺する事もありますが、斯う云ふ例は極く稀であります。先づ昏睡が二十四時間以上乃至それよりも長く續いた場合には、豫後は不良と考へて宜しい。尙ほ又昏睡の度合が漸次深さを増すといふやうな時も亦豫後は不良であります。

第二、體温の關係であります。脳出血では體温は發作時に於て一時低下して次に一乃至三時間を経て再び徐々に上つて通常の體温になるのが普通の経過であります。處が場合に依ると此の定型的経過を採らないで體温が通常の體温に昂らずに漸次著しく絶えず下がつて行くといふ様な場合は餘程重篤な症候であります。殊に同時に脈搏が小さくなり頻數になつたやうな場合には悪いのであります。或ひは一時間低下したものが急劇に強度に上昇した場合、例へば四十度以上にも昂つたといふやうな場合にも生命の危険がある事を思はねばならぬ。發作後二十四時間位の間に三十七度以下であるといふやうな場合には出血が先づ止まつたと考へて宜しいのであります。

はならぬ。先づ、第一に、首相初め爲政者が、誠意正心事に當り、一般人民が心を一にして此回復に勉めたらんには、余は二十年を出ずして、帝都の復舊は、回復し得らるべきを確信す。其回復の曉には、外觀は如何にあるか知らぬが、大正十二年八月三十一日の東京よりも秩序も立ち、風紀も紊れず、  
◆資力も増し 貿易も盛なる大東京が出来やうと思ふ、如此き災害は、長くも百年に一回(今回の如きは六十九年目である)位あると假定せねばならぬが、小は町村より、大は一國の政府まで、凡て政府の事は無用であるとか、人は箇人箇人のもので隣保互に憐むといふやうな事は全く無用であるとかいふ説の極めて誤謬であることを證明論破するには最もよき例であると思ふ。眞の箇人主義の邦國なりとて地震はある。斯る際に、村なり、町なり、國なりに政府があつて、統一し、監督し、整理すればこそ、救済の實も果がり、食物も、

◆補給輸送が 出来る。不逞の徒も取締が附く。若も是等の政治機關がなかりしならば、いかに被害が大なるべきか。又、一方、軍事は不生産的だ、成るだけ減せとか、九で止めるとか絶叫する者があるが、此際軍隊がなかつたならば、いかに兇徒草賊が跋扈跳梁して罹災民を苦しましむるか、又軍艦の備あつてこそ、遠地から、食糧なり、救護品なり、迅速に到着する等、軍事の恩資も、實に大なるものである。平心此を思はゞ、新奇浮躁の邪説に惑されんとする人も大に覺る所あるべし。

## 告 急

本社類焼に際し、雜誌發刊上必須の重要書類は全部搬出しましたが、調査部の質問書、人事部の通信書等を焼失しました。何卒再度御申越を願います。代理部は藥品市場全滅の爲め今ま暫くお待ちを願います。

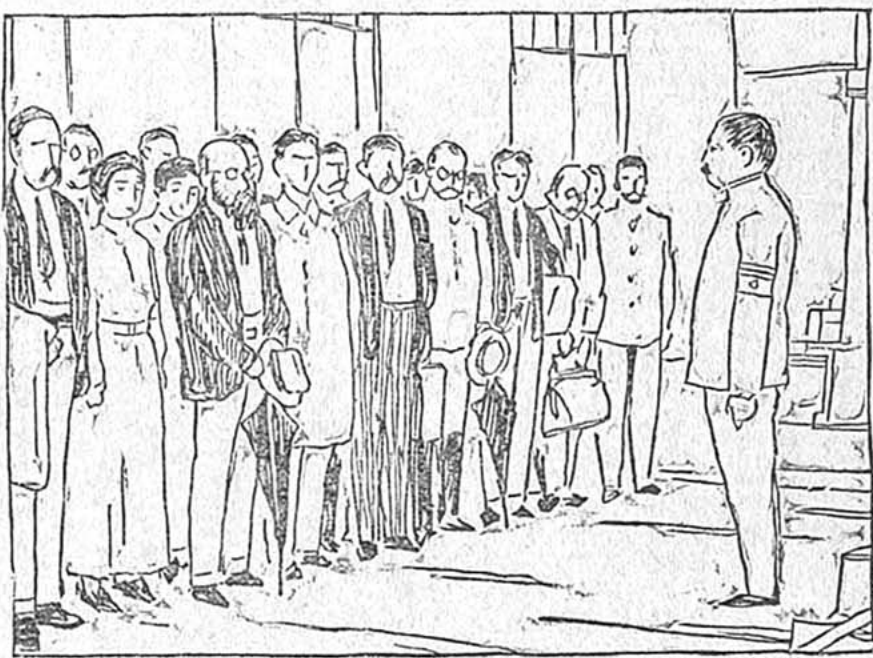
遠であります。もう少し我が國に於いても病理解剖がどしどし行はれるやうになつたならば、より以上の進歩を遂げる事が出来ると思ひます。これは特に諸君に申上げて出来る丈けさういふ風に進まれる様に希望します。

尙卒中患者の死亡する日数は如何にといふと、先づ七日目から十日目位で死亡するのが一番多いのであります。明治生命保険の高田君の報告によると、脳出血で十日目以内に死亡したものは、全死亡数の六六・三%、十日以上廿日以内に死んだ人は八〇・六%であるといふとであります。それで脳出血の豫後は十日過ぎでないといふと極く確かな豫後はいへないので、忠家の人々に向つて豫後を話すのは、十日或ひは十四日過ぎてからでないといふと確かなことはいへませぬ。

それから半身不随等が起つた場合に其の豫後は如何か。それは發作の麻痺症状が早く治つて行けば豫後はよいのであります。發作後一ヶ月を経て残つた麻痺はそれだけ多くは後まで残ります。然し輕快の極點に達するのは六ヶ月間でありませぬ。その上の六ヶ月間は幾分かよくなりますが、それは微々たるものであります。患者が手足を使ひます爲に練習によつて運動の具合がよくなることあります。

次に再び發作が起るかどうかといふ問題であります。其れは血壓に關係があるやうにいはれて居ります。然し腦出血が必ず血壓の高い場合にのみ來るとは限りませぬ。血壓百六十水銀柱を境として以上のものと以下のものとを比較して見ると、恰度半々であつて、即ち半分位は百六十以下で起るのであります。しかし、無論第二回の發作は血壓の高い方が起り易いといふのであります。高田君の統計に

よると第二回の發作は一年以内に來る事が最も多く、年を経るに隨つて%が低下する。五年以内に第二回の發作の起つたのは全数の八十%であるといふのであります。即ち第二回の發作は五年以内に來る事が多いと見ねばならぬ。それから急性の發作の起つた場合に先刻十四日位経てば豫後がよろしいとい



警視廳救護班醫課長より訓示を受ける發光之景

つたのですが、十四五日目に大出血が急に起ることが稀れにありますが。あまり動かしもせず安靜にして置いて來ることがあります。これは今日の學問の程度では前以つて知ることは不可能であるが、よく患者を移動する際に來ますから此の事も考へてやる必要があります。さうでないといふ非常に氣の毒な思ひをせねばならぬことあります。(終り)

# 振古未曾有の大震災と

## 救護班の

### 決死的活動

死傷實に數十萬に達する空前の慘害に全國の大學醫師會日赤支部より來援す

九月一日午前十一時五十八分、突如東京を襲つた大地震は、三百萬市民の心魂を顛倒せしめ、家屋の倒壊、男女の死傷殆ど算なく、續いて起つた八十二ヶ所の火の手は、忽ちにして燃え擴り、炎焰天に沖し、ついに三日二夜に亘る大火災とはなつた。言語に絶したる幾多の悲惨事、筆に上す能はざる幾多の哀話、一一報導するに遑まないが阿鼻叫喚、天地晦暝、此の世からなる修羅道を現出し、ついに世界の文化を茲に集め、大和民族の誇りとせる此の大帝都の大半をして全くの焦土と化して仕舞つた。此の間氣息奄々として焦土に墮はる者、大怪我の手當もし得ず鮮血を浴びて混亂の巷を匍行するもの其の數を知らず、眞に悲惨の極であつた。

#### ◆ 震災救護事務局

吾が官憲の救護事務は早くも着手せられ、其の總本部としては政府に臨時震災救護事務局なる官制の發布あり、總裁は内閣總理大臣山本權兵衛伯、副總裁内務大臣後藤新平子、參與として各省次官、委員として各省局長これに當り、種々なる部門を設けそれ／＼最善を盡して居るが、救護事業は醫療衛生部

の部門を設け、主任委員は衛生局長横山助成氏之に當り、更に醫療衛生部を三つに區分し、第一は「連絡供給」第二「救護」第三「庶務」とし、衛生局長在勤の技師、書記官、事務官等がそれ／＼を分擔して居る。狹隘な内相官邸に數百人、或ひは殆んど千人に近い人が詰めかけ、門前には自動車も百臺餘りも屯し、研摩、轍撃の有様、全然戦場の状態で、人をかき分けて右往左往する有様は、實に想像以上である。尙ほ實際に就いての救護事務遂行に當つては警視廳之れを承り、其の他濟生會、赤十字社等の公共團體を初め府廳、市役所、傳染病研究所、和泉橋病院其の他府縣より上京した、救護班等、孰れも部署を定めて決死的の大活動をしつゝあるのである。

## 警視廳の活動

△第一期 警視廳に於ては前古未曾有の大震災起るや、早くも零時十分には日比谷公



横山衛生局長

衛生技師井口乘海氏等の手を以つて應急手當を施した、ついで午後三時には巡回救護班十班を組織して、市内十ヶ所に急派した、其の中には燃え上る猛烈

火の手に遮ぎられて目的地へ達することが出来ないで歸つて來たものもあつたが、多くは慘憺たる苦心をして、よく目さす場所に到達し救護の任務を盡した、中にも美阪警察醫の卒ゆる一班は、班員である警察官が、行く手を遮つぎて燃え上る猛火を見、到底其の目的地に到達するの不可能であることを主張して切諫したが、班長は更にきかず、猛火の中を突進してつひによく目的地に到着した、併し同班は出發後三日三晩消息を絶つて仕舞つたので、本廳では

に收容した、其の他東大、慶大、和泉橋病院にも依頼して收容して貰つた。斯様な混亂繁劇名狀すべからざる状態の中に第一日は了つたが、第二日、即ち九月二日朝、群馬縣衛生課長高木乙熊氏は早くも數名の救護員を引率して上京してくれたので、一同は非常に喜んで、最も鼻の極を呈せる本所被服廠跡の附近御藏橋に出勤を依頼し、附近に呻吟せる無数の罹災者を收容し、重症患者は電燈會社の物置に容れて應急手當を施したが、其の數實に三百三十人、單に手當に止まる外來は無數にして、幾千なるを測り知ることが出来なかつた。群馬縣の救護班は課長自ら主腦者となつて出張せられ、然かも最も迅速に到着せられ、尙ほ最も困難な方面を引受けて決死的に奮闘せられた點に於いて、其の縣の位置にも因ることであらうが、各府縣の救護班中の第一位に推すべき殊勳者であると稱して差支ないと思ふ。

園に救護所を設置した、さうして腦振激を起した者、打撲裂傷を蒙つた者等を續々として收容し、醫務課長龜岡慶治氏、

非常に其の安否を氣づかつて居つたが、歸廳後に尋ねたところによると、食事もろく／＼せず非常に奮闘努力を繼續して、披群の効績を上げたといふことである。

警視廳員一同は火の手が官舎から應舎へ燃え移ると共に、出来る丈けの書類を持ち出して、日比谷公園に避難したが、續いて第一中學に移り臨時救護病院をそこに設置して患者を續々と收容、重症患者は



警視廳衛生事務室



總務課長

縣衛生課長高木乙熊氏は早くも數名の救護員を引率して上京してくれたので、一同は非常に喜んで、最も鼻の極を呈せる本所被服廠跡の附近御藏橋に出勤を依頼し、附近に呻吟せる無数の罹災者を收容し、重症患者は電燈會社の物置に容れて應急手當を施したが、其の數實に三百三十人、單に手當に止まる外來は無數にして、幾千なるを測り知ることが出来なかつた。群馬縣の救護班は課長自ら主腦者となつて出張せられ、然かも最も迅速に到着せられ、尙ほ最も困難な方面を引受けて決死的に奮闘せられた點に於いて、其の縣の位置にも因ることであらうが、各府縣の救護班中の第一位に推すべき殊勳者であると稱して差支ないと思ふ。

せられた非常手段は、之れ亦特筆大書に價する努力であつた。斯くの如くにして震災火災による負傷者の處置は晝夜兼行を以つて遂行せられ、本廳の救護班を始め、各府縣衛生課、各府縣醫師會、赤十字支部、濟生會、其他公私の諸團體の熱烈なる同情によつて次第に所期の救護目的を果して行くことが出來たのである。

▲第二期 斯様な状態の中に第一期の急救的處置は終りを告げて、第二期に這入つた。第二期に入つてはさういふ負傷者でなく、數日に亘る、大なる疲労、困憊、飢渴、過激の勞働、精神的の不安、苦痛といふやうなことから起つた内科的疾患が頻出し、殊に平常口にしたことのない汚水を飲み、平常ならば到底口に入るを得ざる粗品を攝つた爲めに起つた消化器の障礙が非常に多かつた。然かも陸軍衛生材料廠倉庫の焼失から、これ等の疾患の治療薬が不足して又困難に陥つたのであるが、之れも各府縣貯藏の物を東京へ廻送してくれたもの、及び内務省の東京衛生試験所の非常なる活動によつて、今日ではほど潤澤とは謂はれない迄も甚しき不足を感ずることなく、且つ或る種の不足薬は代用薬品によつてそれ／＼處置して居るのである。

▲第三期 斯くの如くにして第二期を經過したが最近に至つては各府縣から上京して居つた各種の救護班は經費食糧等の都合により、ぼつ／＼引き揚げ初めたのであるが、漸く秋冷の候となつたので呼吸器疾患も増加すべく、各救護班の後陣は警視廳が引受け彌が上にも救護事業を徹底する必要があるので急遽救護班百を組織することになつた。即ち救護班一班に就いて二名の醫員であるから、總計二百名の醫師を必要とする。幸にも之れは東京の火災區域に於ける開業醫師の焼け出された者が何れも其の任に就くことを承諾されたのであるが、之れによつて各

所の患者を治療すると同時に最後の問題として最も憂慮すべき傳染病の發生に對して、其の豫防撲滅に最も重大なる關係をもつて居る、患者の早期發見といふことが可成りのところ迄成し遂げらるゝこと、思ふのである。

大災後の傳染病としては赤痢が一番多く、之れに次ぐものはチブスである、之れを豫防撲滅するに就いては、其の傳染経路が水道の破壊に基づく井戸水使用に因るものであることは明瞭であるから、此の井戸水の消毒を遂行することゝなつた。即ち其の方法は漂白粉消毒法である。昨春の強震の際にも東京市の水道が破壊せられて、水の供給一時に止まり、已むを得ず市民は井戸を用ゐたのであるが、警視廳に於いても、斯ういふ突發事があることを慮り、井戸の一齊埋没はこれを見合せて居つたのである。果せる哉今回の震災に際して市民が唯一の頼は井戸水であつたのであるが、然も傳染病といふことを念頭に於いては須臾も等閑に附すべからざることであるから、漂白粉消毒を行ふことになつたのであるが、市民にも此の當局の意のあることを了察せしめ、『井水は消毒せるものにあらずんば使用すべからず』といふことを忘れないやうにしたものである。

凡そ病毒の存在する場所は第一に勝手流し場、第二に糞池、第三に下水である、之れ等を消毒する目的を以つて井水に漂白粉の投入と病毒の存在場所の消毒とを完全にすることゝなり、其の爲め經費總額貳拾四萬三千四百七拾五圓を經上し、消毒班を組織することゝなつた。

此の消毒班の施行方法は、焼け残つた市内各戸及び郡部合せて約七十萬戸に亘り、毎日三萬戸宛つ九日間に一巡する筈である。之れは、一二ヶ月間繼續して少とも七八回繰返へして行ふことが出来るのであるが、消化器系傳染病には相當の効果があら

とは勿論であらう。此の舉が發表せられたところ各方面から非常なる歡迎を受け、市民自ら進んで其の消毒を依頼しつゝある程である。

### 醫師會救護班

- ◆大阪府醫師會 八日、薄班長以下醫員五名、看護婦四名、産婆一名、小使二名來援、新宿御苑内に於いて救護を開始す。
- ◆佐賀縣醫師會 十二日、醫員五名藥劑師一名、看護婦十一名、小使九名來援、即時芝公園内に於いて救護を開始す。
- ◆高知市醫師會 十二日、醫師五名、看護婦八名、救護應援として到着。
- ◆千葉縣長生郡醫師會 六日、醫員二名、消防手廿五名來援、龜戸方面に於て救護に従事。
- ◆長野市醫師會 六日、醫員三名、助手四名先發班(淺草橋設置)の交代として午後五時着。
- ◆長野縣松本市醫師會 八日、醫員三名、看護婦四名來援、本郷駒込署管内に於いて救護開始。
- ◆長野縣東筑摩郡醫師會 八日、醫師四名、看護婦六名派遣、上野公園博物館に於いて救護開始。
- ◆長野縣南佐久郡醫師會 醫員二名、看護婦二十名、八日午後一時來援、即時上野櫻木町千壽院内に於いて救護を開始す。
- ◆長野縣北佐久郡醫師會 同會にては醫師二名、看護婦二名、助手一名、人夫一名派遣五日到着。
- ◆長野縣下水内郡醫師會 八日、醫師六名、看護婦七名午後五時來援したるも、救護班の分布稍充實せるを以て即時横濱市に應援として出發。
- ◆長野縣上伊那郡醫師會 醫員四名、助手九名來援
- ◆警視廳、品川病院救護所應援として即時同所に向け出發。十日、更に醫員四名、看護婦十二名、人夫二

名來援、即時新宿娼妓病院内に於いて救護開始。

◇長野縣下伊那郡醫師會 十日、醫員五名、齒科醫一名、助手六名、在郷軍人四十九名來援、品川娼妓病院に於いて救護開始。

◇福島縣石川郡醫師會 八日、醫員二名、看護婦二名來援、南千住署管内に於いて救護開始。

◇福島縣大沼郡醫師會 九日、醫員一名、看護婦二名來援、上野博物館内に救護開始。

◇和歌山縣醫師會 九日、醫員二名、藥劑師一名、助手一名、看護婦十六名、看護夫二名來援。

◇北海道岩見澤醫師會 十八日、醫員四名、藥劑師二名、助手六名外十六名來援、下谷區谷中小學校内に於いて救護を開始。

◇小樽市醫師會 北海道小樽警察署及び小樽市醫師會より、混合班として醫員十八名、助手十七名、看護婦十九名、人夫八名、衛生係員六名來援、上野公園内に於いて救護開始。

### 各府縣救護班

◇栃木縣 三日、醫員四名、警官三名、看護婦三名、書記三名、藥劑師二名、防疫監更一名到着、牛込神樂坂警察署に於て救護開始す。七日先發班應援として看護婦八名午前十一時來援、八日、醫員一名、助手一名、看護婦一名來援、品川署管内に救護開始。

◇群馬縣 三日、午前六時、高木衛生課長、醫員五、藥劑師三、警官十五、消防手四十、在郷軍人五十五、青年團十六(内醫師三)を率ひ、衛生材料を携帶し、救護應援として來着す。在郷軍人及び青年團一班は寺島警察署管内に、其他の一班は本所相生署管内陸軍被服廠跡に出發す。(消防手三十名、警察官三名は本部に殘留)六日、醫員五名、助手三名、救護應援として本日午前十時到着、小石川區植物園及傳通院

構内に於て救護事務を開始す。

◇茨城縣 四日、衛生課長他醫員三名、藥劑師二名、警察官吏二名、助手三名、雜役夫二名到着す。五日更に醫員二名、警察官吏一名、助手一名、小使一名到着す。

◇宮城縣 四日、救護班一個十名應援として派遣、次いで班員増加、一部班員は澁谷警察署管内に於いて救護に従事中の處、神田萬世橋側に移動救護に従事す。

◇千葉縣 四日、醫員七名、警察官吏一名、看護婦一名、消防手三十九名來援、直ちに本所太平署管内及び龜戶署管内の二箇所に分割、救護所を開設す。六日、醫師三名、消防手三十一名、小使一名、午後五時來援、深川洲崎消防出張所に於いて救護開始。

◇福島縣 五日、醫員二名、藥劑師二名、助手二名、看護婦五名來援、田端驛方面に於て救護に従事す。更に七日、醫員三名、助手三名、看護婦四名來援、

上野博物館内に於いて救護開始。

◇山形縣 四日、醫員二名、助手一名、事務員一名、看護婦六名、人夫二名よりなる救護班は四日朝着京せるも、横濱に應援することとなり、芝浦より軍艦山城に塔乗、横濱市中村町第二衛生試驗所内に於いて救護開始。

◇秋田縣 八日、安倍博士外醫員四名、看護婦十一名、助手三名、齒科醫一名、人夫六名、昨日午後四時來援、龜戶署管内に於いて救護開始。

◇青森縣 五日、醫員二名、看護婦二名、助手二名、王子署に到着、六日御藏橋に於て救護に従事す。

◇京都府 五日、京都府より救護の爲め上京したる藥劑師四名、警察官吏二十六名は小松川警察署管内の各所に移動救護に従事す。十日、更に醫員二名、藥劑師一名、看護婦九名、人夫四名の救護班は午前八時月島署管内に於いて救護を開始。

◇三重縣 五日、醫師四名、衛生主事一名、衛生主事補一名、書記一名、看護婦十五名、雜役夫一名來援、日暮里驛構内に於て救護に従事す。

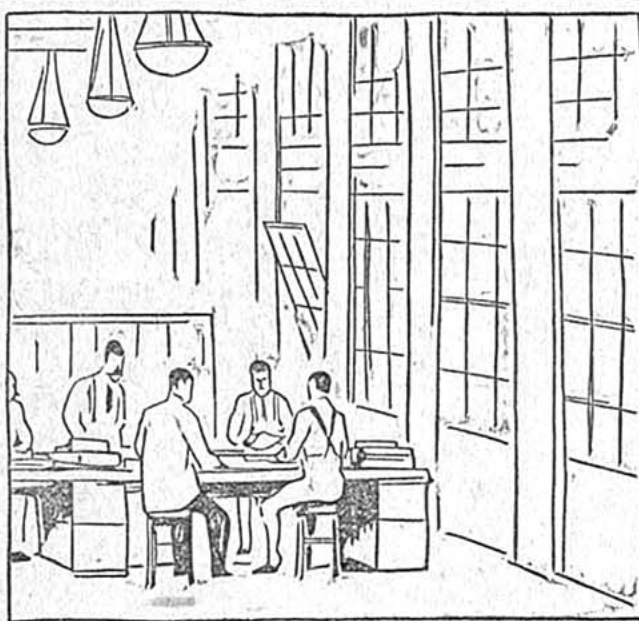
◇愛知縣 十一日、醫員一名、看護婦三名、青年團十一名、縣屬一名來援、赤坂表町署管内に於いて救護を開始す。

◇福井縣 五日、醫員三名、助手二名、看護婦四名、人夫三名來援、本所御藏橋側に開設中の群馬縣應援班と交代し救護事務に従事す。

◇和歌山縣 同縣救護班は十一日より南千住署管内に於いて救護を開始す。

◇徳島縣 九日、醫員六名、看護婦二十二名、藥劑師二名、警察官吏及び青年團員十名午前十時救護應援の爲來援、即時澁谷管内に於いて救護開始。

◇北海道廳 七日、醫員七名、警察官吏十四名、看護婦五名來援。



海軍省に於て救護班の事務室

## 赤十字救護班

◇島根縣赤十字社支部 八日、醫員二名、看護婦二  
十一名、助手一名、去九日來着。  
◇北海道赤十字社支部 七日、醫員三名、助手三名  
看護婦十四名到着。  
◇福岡縣赤十字社支部 救護班醫員以下三十名來援  
下谷、坂本警察署管内に於て救護開始す。

## 各大學救護班

◇東京帝大醫學部 四日、醫員三名、看護婦二名來  
援、直ちに芝公園に配置す。  
◇同部 六日、近藤外科醫局より左記組織による救護  
班三班の準備あり、何時にても出動の要求に應ずる  
旨通報あり。

## 眼科醫一名、計六名

◇慶應大學醫院 二日、醫員四名、看護婦六名來援  
直ちに之を二班に編成し、芝愛宕署及び赤坂表町署  
管内に配置す。午前十一時、醫員二名、看護婦二名  
來援、直ちに淺草象潟署管内に配置す。午後一時三  
十分、醫員三名、看護婦二名來援、淺草日本堤署管  
内に配置す。又醫員三名、看護婦二名來援、即時京  
橋北紺屋署管内に配置す。

◇傳染病研究所 二日午前九時醫員四名來援直ちに  
本部班に附屬せしめたり。午前十時第二回の應援と  
して醫員七名來援、直ちに七班を編成、京橋、日本  
橋、外神田、下谷、本所、深川の各方面に配置す。  
三日、救護本部收容傷病者益々増加の爲め九十一名  
を送院す。

◇金澤醫科大學 六日、泉博士以下醫員六名、看護  
婦十一名、石川縣より齊藤衛生課長他醫員一名、看  
護婦四名、警察官吏二名、助手一名、救護應援とし

て本日午前八時到着せるに依り向島牛島小學校内に  
開設中の警視廳救護班に應援として即時同所に向ひ  
出張。

◇新潟醫科大學 十七日、醫員四名、藥劑師一名、  
看護婦八名、人夫五名來援、即時龜戸第一小學校内  
に於いて救護を開始す。

◇千葉醫科大學 十七日、傷病者救護應援としての  
出動を文部省より懇囑せられ十九日より來援。

◇大阪醫大救護班 阪大にては、救護班三班を組織  
し、軍艦扶桑に塔乗して六日朝芝浦着、一班は外科  
小澤凱夫氏指揮の下に日比谷公園新音樂堂に本部を  
置き、他の二班はランチに依り横濱に赴いて救護に  
努めた。

◇愛知醫科大學 十四日、醫員七名、小使二名、書  
記一名來援、向島署管内牛島小學校内に於いて救護  
に従事す。

## 其他

◇南滿洲鐵道株式會社 理事以下醫員、看護婦等六  
十名よりなる救護班は九日東京に到着。  
◇大阪工場衛生研究會 十一日、醫員二名、助手三  
名、看護婦三名、人夫二名來援、即時南千住署管内  
簡易食堂内に於いて救護を開始。

◇同會 二十一日、同會救護班は去る十六日引揚げ  
歸阪に際し、携帶せる救護材料、煮沸消毒器、外十  
八品及び昇汞ガーゼ外三十八種を警視廳救護本部に  
寄贈す。

◇神田和泉橋病院 傷病者多數收容活動。

## 東大の消息

◇救護班を警視廳に提供 東大附屬醫院にては震災  
第一日より傷病者の爲早くも救護を開始したが、市  
内の慘狀は益々激甚を極むるより附屬醫院にて全能

力を發揮して救護に努むるは勿論基礎科各教室員を  
非常召集して救護班を組織して警視廳に提供した。

◇各員の部署定まる 東大構内にては千八百名の罹  
災者其他を收容して居るが部長會議にて方針を決定  
し大々の救護事業を開始する事に成つたが「防疫」  
「救護」「食糧」の三部に分ち防疫本部を衛生學教室  
に置き防疫の中「健康診断」は眞鍋嘉一郎氏、細菌  
検査は竹内博士夫々主任となり「救護」は内科主任  
を坂口博士、外科主任を鹽田教授と定め「食糧部」  
は石原忍教授これを主管し夫々部署を定めて救護に  
努力しつゝある。

## 慶大の狀況

◇救護班 三日三班を組織し警視廳と聯絡し日本  
堤、増上寺、上野公園を始めとし各方面に派出す。  
◇患者收容 入院患者には異狀無く外來は一先中止  
し東教室(病理細菌教室)を開放して患者室に宛て救  
護の爲に殆んど全力を注ぎ輸送機關不足の中なれど  
も七日迄に既に八十名を收容し尙運搬器の便を得次  
第漸次増加の豫定であると。

◇糧食 是震害後直に購入した爲途に殆んど玄米を  
口にせず過ぎたり、とは誠に用意周到の處置と思  
はれた。

## 傳研の消息

◇所員の罹災 所員にして火災の厄に遭ふた者は長  
與所長、二木博士、遠山學士等であり其中二木遠山  
の二氏は所内官舎に避難。

◇傷病者の收容 傳研にては震災後二百―三百人の  
傷病者を收容して救護に従事した。

◇ワクチン製造に着手 傳研にては引續き災後の防  
疫に貢献すべくチブスワクチンを製造供給すること  
となつた、臨時震災事務局より早速同ワクチン一萬